

No.71

け
や
き

特
集

TOPICS
REPORT

左京図書館 新館長さんからメッセージ
図書館で発表会

くさはらかなさん講演会&原画展
絵本「いろいろおちば」ができるまで

図書館友の会けやき ニュースレター 2024.5.17

特集 くさはら かな さん 講演会&原画展 —絵本「いろいろおちば」ができるまで—

京都市在住の絵本作家、くさはらかなさんをお招きし、3月2日土曜日の午後、左京図書館上階の会議室で、左京図書館と図書館友の会けやき共催の講演会を行いました。くさはらさんが描いた大きな桜の木のスケッチが貼られた会場で、大人から子どもまでが講師のお話に耳を傾けました。

子どものころ

まず、くさはらさんは自己紹介として、幼少期の思い出から、絵本作家になるまでの道のりについて話されました。

自然豊かな兵庫県の田舎町で育ったくさはらさんにとって、自宅の庭と祖父宅の庭が一番身近な自然。よく訪れた植物園では温室が特に気に入りで、初めて入ったときは探検家気分で大喜びで走り回っていたそうです。

また自然を題材とした絵本にもたくさん触れてこられました。ファンタジーより、リアリティのある渋い絵の本が好き。持参された気に入りの「やどかり」(かがくのとも 1974年7月号)を、くさはらさんが見せてくださると、その「渋

さ」に会場中が頷いていました。たくさん読んだ本のなかでも特別だったのが「のうさぎのフルー」と「かわせみのマルタン」(リダ文、ロジャンコフスキー絵)。フィクションとノンフィクションの間のようなお話と絵に惹かれ、後々までくさはらさんの道しるべとなります。

作家を志す

自然を描くきっかけについて、くさはらさんは「自然を眺めたときの『特別な気分』を子どものころからもっていたけれど、大人になるにつれ、ほかの人はもっていないのかな?とを感じるようになり、『誰かと共有したい』と思うようになった」と説明されました。

大学では日本画を専攻。日本画は大好きな植物や動物を題材とし、一つの対象としっかり向き合うことが求められるそう。それが自分の内面と向き合うことにつながるといいます。

ただ、日本画は版が大きく、小さなものをたくさん描くのが好きだったくさはらさんは、将来も見据え、絵本作家へと舵を切ります。絵本塾へ通い、自分に合ったテーマを探し始

めたくさはらさん。当時は絵本ブームで、個性の強いものがたり絵本が流行りでしたが、やはり自分の好きな対象を描きたいと、自然科学絵本をつくることに決め、手製の小さな絵本をアートマーケットに出品するなどして活動を始めると、その作品が京都を訪れていた福音館書店の編集者の目に留まり、作家への道が開けます。



絵本「いろいろおちば」

「いろいろおちば」ができるまで

2023年10月に発行された、絵本「いろいろおちば」の制作が始まったのは、2019年の秋。この絵本の元になる、手作り絵本「おちば」を絵本のイベントに出したときは、子どもより大人からの反応がよく、「どんぐりのほうが子ども向けなのでは」とアドバイスをもらったりしたそう。しかし、くさはらさんにとって落ち葉は、「有終の美」といったイメージではなく、祖父の家の鮮やかに色づいた蔦の葉のような、きらきらした存在。子どもに喜んでもらえる落ち葉の本にしたいと構想を練り始めました。

絵本に登場する木のモデルは鴨川沿いに立つソメイヨシノ。その木を「桜子」と名付け、くさはらさんは3年かけてスケッチしていきました。「1本の木」からいろんな落ち葉が拾える、というのがこの絵本のテーマ。だから、他の木の葉と混じらないように、独立して立ち、描きやすい場所にあるこの木をモデルにしたそう。通常、編集者とともに取材を進めますが、コロナ禍でそれは叶わず、リモートで打ち合わせを重ねました。桜についてわからないことは、植物生態学者の多田多恵子さんに、桜の描き方については、絵本「さくら」(長谷川摂子文 福音館書店)の絵を描いた矢間芳子さんに、編集者を通して教えを乞いました。木に名前を付けたのも矢間さんに倣ってのこと。落ち葉をスケッチできるのは、秋から冬の限られた時間です。くさはら

さんは、3年にわたって何度も「桜子」のところへ足を運び、スケッチを描きためていきました。

科学絵本の作り方

スケッチと同時進行で、絵本のあらすじを決めていきます。まずミニサイズのラフ本をつくり、編集者とやり取りを重ね修正し、原寸大のラフ本を作製。そしてテキストの入ったラフ本とたくさんスケッチを見ながら、下絵、原画と描き進めます。下絵には特に時間がかかりますが、日本画で培ったじっくり取り組む姿勢がここで生かされるそう。

スケッチやラフ本には絵の具も使用しますが、原画に使うのは色鉛筆だけ。それは日本画で学んだ色づくりが生かせるからだそうです。絵の具のようにパレットで混色するのではなく、少しずつ色を塗り重ねて厚みを出していきます。

「正しさ」と「読みやすさ」を同居させる

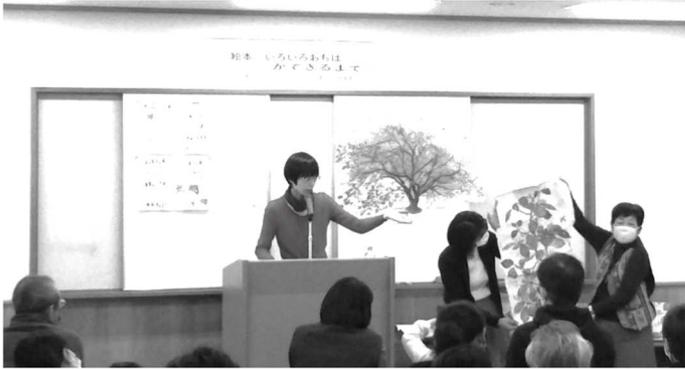
科学絵本なので当然正確さが求められますが、特に「ちいさなか がく の とも」なので、対象年齢の子どもにわかりやすく伝えることも重要で、何度も編集者と意見を出し合い、言葉を探されたそう。「どうやってできたのかな?」といった問いかけをすると、子どもは答えを知りたくなるので、答えを書かないのであれば、そのような表現は使わないほうが良い、など、編集者から教わることも多かったとか。

編集者と二人三脚で

くさはらさんはこれまで、「おおきなきとであつたら」、「ふゆのべたんこぐさ」、「いろいろおちば」と「ちいさなか がく の とも」から3作出版されていますが、この間、4人の編集者と仕事を共にされました。

手作りの絵本を評価して、作家への道筋をつけてくれた最初の編集者は、くさはらさんが大好きだった「野うさぎのフルー」のような絵本をつくりたいと「ちいさなか がく の とも」を立ち上げたメンバーのひとり。(「ちいさなか がく の とも」の判型を決めるとき、「フルー」の原書の形や大きさがよいなと思ったそう)。コロナ禍、リモートで「いろ

いろおちば」の制作に伴走した3人目の編集者。そこから仕事を引き継ぎ、絵やテキストの完成まで導いた現在の編集者。講演中、それぞれの編集者とのどのようなやり取りがあったか具体的に話される場面が何度かあり、その様子から、くさはらさんの編集者に対する信頼が伝わってきました。



講演会の様子

支えとなった言葉

「桜子」のスケッチに行き詰まっていたときに、2人目の編集者がくれたアドバイスは、くさはらさんを助けてくれたといいます。スケッチがうまくいかないのは、「仕事のために描く対象」として木を見ているからではないか。1作目で描いた「おおきなき」のように、木に会いにいくという感覚で、まず親しくなり、1年を通してその木と向き合い、生まれてから散っていくまでの葉っぱのドラマを観察すれば、木全体への愛着につながるのではないか。これらの言葉が、「いろいろおちば」の制作期間中、支えとなったことを話し、くさはらさんは講演を締めくくられました。

くさはらさんは、講演会にご自身が大切にしている貴重な絵本を持参され、「ぜひ手に取って見てください」と声を

かけてくださいました。ひとりの読者としての絵本への愛情、作家としての描く対象への愛情、そして仕事への真摯な態度が絵に表れているのだと感じました。

参加者アンケートより

- ・1冊の絵本の完成には、とても長い月日がかかり、画や文の手直しを何度もしているということがよくわかりました。制作過程の資料をたくさん見せていただき、ありがとうございました。
- ・くさはらかなさんの絵がどっしりとした本物のような絵で、すごいなと思いました。
- ・子どものころ親しまれた本の紹介、よかったです。今やなかなか手に取ることができない貴重な月刊誌もお持ちいただき、ありがとうございます。
- ・なかなか知ることのできない編集者とのやり取りなど、絵本作りの過程が知れて、大変興味深い講演でした。
- ・物語と科学絵本では、言葉にもちがいがあると知っておどろきました

絵本「いろいろおちば」ができるまで 原画展

2024年2月28日～3月4日

くさはらかなさんの講演会に合わせ、絵本「いろいろおちば」の原画展を左京図書館の館内で開催しました。「いろいろおちば」の原画のなかから、9点を展示。まるで本物のように鮮やかに色づいた葉っぱの絵が、壁面を彩ります。ガラスケースのなかには、制作過程がわかる貴重な資料

けやきの
本棚

No.71

ロンドン・アイの謎

シヴォーン・ダウド著 越前敏弥訳

東京創元社 2022年

この話は、少年テッドが、巨大な観覧車ロンドン・アイから消えたいとこのサリムを探し出す物語です。テッドは、人の気持

ちを考えることは苦手ですが、気象学を愛し、このような事件の仕組みを解明することが大得意です。

テッドと姉のカットはタグを組み、バイクショーへ人を探しに行き、新たに解明したことを苦手な電話で警察に伝えます。サリムのため、頭をフル回転させ、苦手なことに耐え行動する姿に、感動しました。(中2 とんすけ)

が。編集者からのアドバイスを書いた付箋がたくさん貼られたラフ本や、メモが書き込まれた下絵からは、細かな修正を重ねたことが伝わってきます。またそれぞれの資料の横には、くさはらさん自らつくられた「ラフ本とは?」「下絵とは?」といった説明文がつけられていて、これがどの段階で描かれたものなのか、わかるようになっていました。

また、この絵本の制作に使った、色鉛筆と色見本表も展示。色見本表には「使う色を決めておくと、ページごとに色のばらつきが出ないし、混色して塗るときのイメージもしやすくなる」と説明が添えられていました。緻密で鮮やかな原画が、身近な色鉛筆で描かれていることに、大人も子どもも驚き、感嘆する様子が見られました。

たくさんの葉っぱが描かれたスケッチには、「カサカサ」「小さくても固め」「うすい・しなやか」など、モデルの葉っぱの触感や、「これはわりと早く色がぬれる」「小さくても脈に時間がとられる」など、スケッチに要した時間や手間も書かれていました。この細かな観察の積み重ねが、美しい絵本へとつながっていったことがよくわかります。

置いてある絵本を手に取り、原画と見比べながら話す親子連れや、絵手紙づくりの参考にと、じっくり見入る人も。近い距離で作品に触れる、貴重な機会となりました。

(澤田)



原画展の様子



TOPICS 左京図書館

新館長さんからメッセージ

2021年度から左京図書館館長を務められた山田晃久氏が4月1日付で転出され、新たに大道紀恵氏が着任されました。山田前館長には3年間、お世話になりました。講演会などの行事では、左京図書館の顔としてご挨拶いただくだけでなく、準備から撤収まで、細やかにサポートしていただきました。この場を借りて、感謝申し上げます。大道新館長からは、着任にあたりメッセージをいただきました。

皆さま、こんにちは。山田館長の後任として、左京図書館に参りました大道（だいどう）と申します。よろしくお願いいたします。

平成6年より京都市図書館に勤務しております。一番初めに勤務したのは、右京中央図書館の前身である右京図書館でした。市民の皆さまとのふれあいを大切に、特に児童サービスや学校連携事業に注力してきました。

「けやき」の皆さまのご活躍は、図書館に送られてくるニュースレターでいつも拝見していました。このたび、ご一緒させていただくことになり、とても嬉しく思っています。

地域の皆さまに、なおいっそう信頼され親しまれる図書館づくりをめざしていきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

大道紀恵

みな、やっとの思いで坂をのぼる

一水俣病患者相談のいま

永野三智著 ころから 2018年

家族には言えない。行政は信用できない。熊本県水俣市にある「水俣病センター相思社」には日々、体と心の不調に悩む人たちが訪れる。その切実な思いに耳を傾けている永野さんは

地元生まれ。若い頃に出身地を隠してきた自身への怒りが、今の仕事につながっている。

淡々とつづられた相談者の肉声は重く、鋭い。「話を聞くことは私たちが無力だと痛感すること」「水俣病の『解決』とは?」。永野さんが自らを省みる言葉が、そのままこちらに問いを投げ掛けてくる。

(左京区 R・S)

REPORT

図書館で発表会

図書館資料を使った学びや趣味の成果を展示する「図書館で発表会」を、2月8日から22日まで、左京図書館で行いました。14回目となる今回は、4名の方の作品が展示されました。

手芸作品はいずれもぬくもりを感じる手の込んだ作品。ボタンが印象的なカーディガンとテーブルクロス、印象の異なる2種類のバッグとニット帽がガラスケースの中に並びます。

ガラスケース横の机には、対照的な二つの作品が置かれていました。一つは、テントウムシの模様について調べた子どものスケッチブック。大判のそれには、テントウムシのさなぎから飼育し、模様の変化を観察していった経過が書き留められています。もう一つは、3月に初めて新幹線が通った福井についてまとめたレポートで、福井に住んでいたことのある出展者が図書館の資料を使い、今の福井について書いたもの。年の離れた出展者による二つの「調べ学習」が並ぶ様子は、さまざまな人が利用する図書館ならではの感じました。

これらの出品作品とは別に、壁面に地域の中学生の作品が展示されました。1年生「世界の国調べ」、2年生「歴史新聞」は細かく書き込まれています。一方、2年生が現地に足を運び、大阪についてまとめた総合学習の発表は、大きな模造紙に大阪に行ったときの写真が貼り付けられ、グループで楽しんで取り組んだ様子が伝わります。

また、ティーンズコーナーの横に机が設けられ、地域の中学校の図書委員会が取り組んだおすすめの本のポップが並べられました。今の中学生にどのような本が読まれているのか、知る機会になりました。

地域の人たちの「学び」や「好き」が図書館全体に広がるような展示となりました。

(澤田)

けやきの活動記録

2024年2月～5月

- 2/26 原画展搬入
- 2/28～3/4 くさはらかなさん原画展
- 3/2 「くさはらかなさん講演会」開催
- 3/6 原画展搬出
- 3月下旬～ 「えほんのひろばinきょうと」チラシ配布
- 4/20 「えほんのひろばinきょうと」前日準備
- 4/21 「えほんのひろばinきょうと」開催
- 「おはなし会」(赤ちゃん向け、幼児・小学生向け)同時開催
- 5/10 左京区ボランティアグループ連絡会出席
- 5/17 ニュースレター71号、活動報告・総会案内 印刷・発送
- <事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1金曜日)
3/1, 4/12, 5/17
- <図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜日)
2/24, 3/23, 4/27
- <絵本学習会> (第4金曜日、3,7月は第2金曜日、8月は休み)
2/16, 3/8, 4/26
- <「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
(現在は毎月第3木曜日 10:30～12:00)
2/15, 3/21, 4/18

ラブカは静かに弓を持つ

安壇美緒著 集英社 2022年

子どもの頃、ある事件に遭遇してから心を閉ざしてきた橘。チェロ教室の講師・浅葉や仲間との出会いが、少しずつ橘の心を解いていく。だが、橘がチェロ教室へ通い始めた本来の目的

は、音楽教室が著作権法の演奏権を侵害している証拠をつかむことだった。仕事か、仲間か。仲間と過ごせば過ごすほど、彼らと離れがたくなっていく橘がとった選択は。

公式サイトには浅葉視点のショートストーリーが掲載されているので、そちらもぜひ。(左京図書館 藤田)

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

- ◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

- ◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。
- ◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

けやき情報版

図書館友の会けやき 2024年度定期総会・図書館交流会

今年度の定期総会と図書館交流会を開催します。

◇日時：2024年6月21日（金）
午前10:00～10:30 総会
午前10:35～12:00 図書館交流会

◇会場：左京合同福祉センター3階大会議室
（左京図書館の上階）

図書館交流会では、左京図書館の館長さんや司書さんと左京図書館ボランティア、けやき会員が図書館の現状や日ごろの活動について話し合います。ぜひこの機会に、けやきの仲間になってください。

赤い羽根共同募金



ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

編集後記

この春、左京図書館の館長・副館長の異動が同時にありました。記事で紹介した前館長さんだけでなく、前副館長さんにもお世話になりました。「おとなのための語りを楽しむ会」では、副館長さん自らお話を語ってくださるなど、思い出もたくさん。振り返ると、歴代の館長・副館長との協働により、けやきは活動してきました。人が変わっても良い関係が続いているのは、長く活動していればこそ。これからもよろしくお祈りします。（澤田）

3月開催の「くさはらかなさん講演会&原画展」は科学絵本の作家さんならではの貴重なお話が聞け、原画の持つ臨場感にも触れることができました。講演で紹介されたモデルの木「桜子」を4月、満開の鴨川の桜並木に認めた方も多かったことでしょう。大好評の今回の催しには、図書館は元より、縁の下の力持ちとしてのけやき事務局メンバーの尽力も。身近な図書館に文化的な催しがある幸せ。今後も続けていきたいものです。（島崎）

◇けやき 第71号 2024年5月17日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : info@totomo-keyaki.com